

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者本位の考え方に基づき、職員が話し合いを持ち作成している。基本理念・ケア理念を各ユニットに掲げ、日々その人らしく、地域の中で生活できるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ユニットの中に掲示したり、携帯化して共有できるように努めている。しかし、理念の内容を当たり前のこととして捉えている半面、具体的に理念の達成度としては話し合いはしていない。</p>		<p>今後、ユニット会議やミーティングなどの場を用いて定期的な話し合いを行なった方が良い。</p>
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には入居前・入居時に説明し、面会時の会話の中でお話、情報交換をしている。又、地域の方々には運営推進会議や行事等の催し物を通し、説明している。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>施設近隣や散歩等、外出時にはこちらからの挨拶は欠かさず行なっている。又、登下校をしている学生は、入居者と会話を持つ機会がある。</p>		
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ユニットごとに自治会に加入しているが、現状として実質的な活動への参加は少ない。</p>		<p>事業所での行事(花火大会・防火避難訓練等)を自治会回覧板に載せ、地域の方々知ってもらう。</p>
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>自治会単位ではないが、施設長が認知症介護指導者であり、伊達市の家族介護者教室や高齢者大学等で認知症支援に関する講演・講義を行なっている。</p>		<p>現場職員レベルでは行っていない。継続的な自治会活動への参加を通して、ご近所レベルでのニーズ発掘が行なえることが望ましいと考える。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全体会議などの場で施設長から説明があり、職員全員が理解できている。個々で自己評価を行ない、改善項目についてはユニットごとに話し合い、まとめ、改善に向けての話し合いの下、実行している。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	当ホームの運営推進会議は、家族会(季節ごとの催し物)に参加して頂く形をとっている。よって、自己評価・外部評価を基にした話し合いは行なわれていない。		本年度、まとめの運営推進会議として情報開示を行なうと共に、ご意見・ご感想を頂けたら良いと考えている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要な時は連絡を取り、相談・情報交換を行なっている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護を利用している入居者のファイルを個別に作成し、スムーズに経過できるように支援しているが、制度についての把握はしていない。		今後、勉強会を開いたり、制度について勉強する機会を設けたり、資料の整備を行う。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	施設長からの講義・日々の指導により、虐待はしないという理念は全職員の中に浸透している。利用者本位の考え方に基いて支援を行っており、支援の方法等はユニットごとに日常的に話し合っている。		スタッフは当然の事として取り組んでいるが、虐待防止を目的とした勉強会は開いていない。明確な意識づけを考えるのであれば、法律や現状について学ぶ機会は持った方が良い。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ際、又、解約時は契約書・重要事項説明書を用い、ご家族の納得がいくまで十分話し合い、理解・納得を得ている。又、今後の事も交えながらの話し合いも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常会話の中で管理者や職員へ意見・不満を言える関係作りに努めている。言葉で表現できない方は表情・動作等から感じ取り、それを意思表示・苦情などとして捉えるようにし、職員に周知、話し合いを行なっている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月に一度、アウル通信での生活状況の報告を行なっている。金銭の出納に関しても、通信発送時と一緒に領収書や帳簿の写しを送付している。又、健康状態に異変があった時や、通院時、医師より説明・指示があった時は、速やかにご家族へ報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見は常日ごろから受付られる体制にあり、口頭での意見に関しては、即運営に反映できるよう努めている。玄関に苦情ボックスを設置している。(受付は24時間。担当職員は管理者。)又、契約書に国保連窓口と道社協の苦情担当窓口の案内を載せている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ユニット会議・全体会議を開き、意見を出し合っている。又、管理者は日頃より職員の意見や提案を聞く姿勢があり、反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の身体状況や生活状況に合わせ、必要に応じて職員の勤務調整をしている。その際、管理者は職員に説明し、話し合いがされている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者への影響を第一に考え、生活リズムが変化せず、ダメージを与えないように配慮している。職員は日頃から、ユニットと交流を持ち、顔なじみの関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全体会議等で施設長が講義したり、施設外研修を順次受けられるようにしている。研修内容は復命書を作成し、回覧にて全スタッフに周知している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	西胆振広域連絡会に参加している。又、研修会や、当施設への研修生や見学者と交流を図っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特に休憩時間などは設定されていないが、運営者や管理者は現場スタッフの自主性を尊重しており、指示や業務が少なく、現場スタッフが各々考えて動いている。そのこと自体がストレスの多い環境ではないと捉えている。		スタッフルームは現在、事務所兼用であるが、物品整理を行い、事務員以外に事務仕事をゆっくり出来るスペースがあると、なお良いと思う。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々の努力や実績を把握し、又、失敗を責めるのではなく、今後への取り組み方を考えるよう前向きに指導している。「スタッフが考え合って働く職場」として、向上心ややりがいに繋がっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居する前に本人とも面談を行ない、本人のニーズ・課題・不安等を受け止めるように努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	どんな相談も受け入れ、家族のニーズを明確にし、ホーム側の意向を説明し、理解頂いたうえで入居手続きを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	今のニーズが早急なものか長期的展望のものかを見極め、もし今の段階で他サービスが必要ならば、情報提供・紹介をしている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	入居前に見学を行ない、雰囲気を見ていただいている。入居後は一日の様子を細かく記録し、職員間で共有できるようにし、ご家族にも報告している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	各利用者の好み・能力に応じた活動を、その時の気分を考慮しながら一緒に行っている。又、利用者から学ぶこともあり、お互い感情を自由に表現できるよう、自然に対応している。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	ご家族(特に契約者)とは生活援助計画の更新時にはもとより、面会時には近況報告・情報交換、本人に状態の変化が見られた時には速やかに連絡を取り、経過報告をしている。その中で、職員と本人の関わりを見ていただき、意見を頂いている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。</p>	ライフヒストリーや本人・ご家族のお話から双方の関係を理解し、お互いの思いを知った上で、よりよい関係が継続できるよう支援している。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	地域の行事への参加や、入院中のご家族の面会、地元のお祭り等に出かけている。又、自宅が近い利用者に関しては、散歩の時に家を見に行ったりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係は把握しており、やり取りがある際は必要以上に関わらず、見守っている。個々が孤立せず、関わりをもてるように職員が一緒にお茶を飲んだり、軽作業をする場を作っている。食卓の席順は、利用者同士の関係性を考慮し配置している。必要に応じて、席替えも行なっている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても相談にのったり、情報提供をしている。又、行事への参加・気軽に遊びに来ていただけるよう声掛けを行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人・ご家族の要望の把握に努めている。希望は出来る限り実現できるよう配慮している。困難な方については、ご家族にそれまでの状況・暮らし方を確認し、それを基に本人の顔色・表情などをみて検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にライフヒストリーを書いていただき、情報収集を行なっている。又、毎日の会話の中からどんな生活をしてきたのか聞き、記録に残し把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別のアセスメントシートに記録し、生活パターンの把握、体調の変化等を全スタッフが把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・ご家族の意向を確認し、毎月のユニット会議で意見交換を行ない、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		<p>包括支援センターとの協働は今も行っていないが、今後定期的に訪問して、情報交換をしていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護職員に常に相談しながら、日常の健康管理の支援をしている。受診先は、入居時に馴染みの医療機関への受診の希望があれば継続し、特に希望がない場合には説明を行ない、当ホームの協力医療機関を紹介している。やむなく変更する場合は、本人・家族の同意・納得の上で変更している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に関する受診が必要な利用者には、地域の精神科医師と関係を築きながら安心して受診・治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護職員を確保しており、医療機関の看護師と連携を取りながら日常の健康管理の支援をしている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>ほぼ毎日お見舞いに行き、不安の軽減に努めている。病院関係者と情報交換をし、ご家族と共に入院計画や治療過程・経過を共有し、早期退院できるよう努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した際には、出来るだけ早い時期に主治医・ご家族へ相談している。ご家族には現状をこまめに伝え、今後の方針について話し合い、意思確認を行なった上で終末期の支援を行なっている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度・終末期の利用者がより良く過ごせるようホームでできる・できないを見極め、主治医に相談や往診をしていただく等、チーム全体で生活を支えるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退居時には、施設長・ホーム長・ご家族との話し合いが行なわれ、本人の状態やご家族の希望を十分に確認し、本人に合った環境と考えられるサービスへと移行している。また、必要に応じて、次のサービス先への連絡・調整も行なっている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>スタッフは雇用時に、個人情報保護に関する誓約書に同意・サインをしており、それに基づいて業務に当たっている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声掛けや対応は行っていない。又、個人情報は外部に出さない取り扱いをしている。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の能力に合わせ、選択できる場面を提供している。例えば、おやつ時の飲み物の選択、食事のリクエスト等。小さなことでも自分で決められるよう支援している。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>当ホームでは、唯一目安として決まっているのは食事とおやつ時間であるが、それも本人の状態に応じて提供する形や時間を変えている。個々を中心に考え、職員の都合等を優先することなく支援している。日中はそれぞれが自由に生活しており、散歩や買物等は希望に添えるよう職員の動きを調整し実行している。その他は見守りを行なっている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その人らしいおしゃれができるよう見守り、できない所をお手伝いしている。理美容室は、昔から行っているお店に行ったり、本人の希望する所へ行くようにしている。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>その人の能力に合わせ、できることを体調をみながら一緒に行なっている。中には毎日の習慣になっている方もいる。食事はスタッフも同じテーブルに座り、会話を楽しみながら摂っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒・タバコを好む方はいない。飲み物やおやつ等は、買物に行った時に好みの物があれば購入している。又、ご家族が持ってきてくれた物を食事やおやつの時に、お出ししている。		買物に行って、好きなおやつ・飲み物(個人の分、又は皆で頂く分)を選べる機械をもっと増やしたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の状態に合わせ紙パンツやパットを使用しているが、一人ひとりの排泄パターンの把握、顔色・表情・しぐさを観察し、声掛け・誘導を行ない、できるだけ失禁のないように努めている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日・時間は決めておらず、その人が入りたい時に入っていただくようにしている。また、意思が伝えられない利用者に関しては、当日の状態等を考慮し、雰囲気を作りながら入浴している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの生活習慣に合わせ、夕食後はゆったり過ごしている。眠気がみられたら就寝介助をしている。室温・湿度・光・音等、環境調整をしている。日中も前夜の睡眠状況・体調に合わせ、休息を取れるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来るだけ日々の生活の中で、それぞれの能力に合った役割を持つるよう支援している。又、散歩・買物・庭いじり等、短時間でも外に出られるよう支援しているが、退屈している様子が見られる時もある。もっと外に出たいという希望を持っている人もいる。		それぞれの能力に合わせ、もう少し活動できる場面を作っていきたい(炊事・掃除・洗濯等)。散歩を兼ねて、近くのコンビニへの買物の回数を増やしたい。室内で気軽に楽しめること、興味に合ったことが何ができるとう良い。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し、その方の能力に応じてお金を所持しており、自己管理できない部分を職員が把握して支援するようにしていたが、把握しきれないケースもあった。買物の際は、自分で支払いできるように見守り、必要時は助言している。		本人の短期記憶障害が進み、お金を管理できなくなってきて、職員も把握しきれないケースがあった。今後、本人の能力を見極めて支援していく。(例:おこづかい帳を作り、職員と一緒に確認していく等)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個別の買物や散歩等は利用者からの希望に応じている。又は、職員から誘ったりもしているが、もっと外へ出たいという希望を持っている方もいる。		近くのコンビニへの買物・犬の散歩等、短時間でも外に出る機会を増やして行きたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お墓参りや結婚式、法事等の節目の行事やお正月等の帰省等は家族の協力を得ながら、体調面を考慮し、自由に行けるようにしている。又、元住んでいた地域の交流会に出かけたり、入院中の夫の面会に行ったりしている。各利用者の体調や天候に合わせ、多人数でドライブや地域のお祭り等にも行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者からの自発的な要望が聞かれず、行っていない。		本人の意向を確認し、職員がきっかけ作りをして手紙を書いたり、電話する機会を作ってみる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間には規制はなく、ご家族・友人・馴染みの方がいつでも面会できるようになっている。面会時は好きな場所(リビング・自室等)でゆっくり過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設長の講義により、身体拘束については指導を受けている。常に見守りで対応しており、身体拘束はしていない。		法に基づいた、正しい理解のための勉強会があった方が、職員が共通の認識を持てる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関等は施錠をせず、いつでも外へ行けるようになっている。玄関に出る戸には鈴を付け、入居者の所在・行動に常に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜共、居室の戸を閉めたり、利用者本人が鍵をかけることは自由になっている。常に見守り・所在の確認をし、職員間で伝え合っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	異食行為のある利用者の居室には、口に入れそうな物は置かないようにしている。一人ひとりの状態に応じ、危険とされる物に関しては、スタッフ側で管理をしている。注意の必要な薬品等は、目の届かないところへ保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は事故防止のの為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハット・事故発生に関しては個別の報告書を作成しているので、毎朝のミーティング・ユニット会議・全体会議等で議題にし、事故防止につなげている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し、見やすい場所に掲示している。又、スタッフは2年に1度救急救命講習を受講し、事故に対応できる体制となっている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回、避難訓練を行ない、内1回は総合訓練を行ない、消防職員の立会いの下行なっている。地域の方々には、災害時協力を得られるよう働きかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の状態報告をこまめに行ない、その時々状態を理解していただくよう説明している。又、ご家族と一緒に対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に容態観察を行ない、個々の体調変化や異変を見逃さず、気付いた際には速やかに職員同士で観察、看護師へ報告・情報交換を行なっている。必要に応じ、医療機関へつなげられるよう対応をしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋はアセスメントファイルと一緒に綴っており、いつでも内服内容を確認できるようにしている。又、飲み忘れ、誤薬がないように薬には個人名・服薬日を記載し、飲み忘れがないようにしている。受診後は必ず処方箋に目を通し、処方が変わった時は職員申し送り簿に注意点・観察点も合わせて書き、職員全員に周知し、症状の観察に努めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	起床時に牛乳を提供している。牛乳の飲めない方には代替品(青汁・ヨーグルト等)を用意している。食事は全体として、繊維質の多いものを摂っていただくようにしている。又、運動する機会も設け、便秘予防に努めている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせて、声掛け・口腔支援を行なっている。ケアの必要な方には、義歯を外し洗浄・うがいをしていただいている。又、その際には、イソジンの使用を勧めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に合わせて、栄養バランスの取れた食事提供を行なっている。摂取量が不足している方に対しては時間を決めず、摂取できる時に、摂取できる量、嗜好に合わせた代替食を用意し、又、形態を変えるなどの工夫をし提供している。水分摂取量はその都度記録し、夕方近くにそれまでの合計を出し、少なければ補うよう支援している。又、好みに合った飲み物を提供している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設独自感染症に対するマニュアルがあり、日常の手洗いの徹底、外から帰宅後の手洗いうがいの実施、感染物の取り扱いに注意している他、その時期により、インフルエンザ・ノロウイルス感染を持ち込まないよう、予防に努めている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は古いものから順に使用し、賞味期限の切れたものは使っていない。		台所の隅々までの清潔がなかなか行き届かない。こまめに清掃する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>玄関前にベンチを置き、外出の前後に一休みできるようになっている。玄関先には花壇があり、季節に合った花が植えられている。玄関にはオルゴールが流れており、温かい雰囲気になるよう心掛けている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>基本的に採光の良い造りになっている。リビングは陽が入るので、利用者の好みでカーテンの開け閉めをしている。季節ごとの花を飾ったり、雛人形・クリスマスツリー等、行事に合わせて飾っている。浴室は一般家庭より手すりは多いが、広さは同じくらいである。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>リビングの椅子・テーブルは4～5人で過ごせる場所、1～2人で過ごせる場所と、いくつかの空間ができるように設置している。又、他の人の視線を感じない場所もあり、一人ひとりその時の気分に合わせてくつろげるように工夫している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>居室は入居時に本人・ご家族と相談し、以前から使っている馴染みの物を持ち込んでいただき、これまでの生活と変わらぬ環境づくりをしている。又、思い出の写真などを壁に飾っている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>常に空気清浄機を使用している。リビング・廊下・各部屋には温度計・湿度計を設置し、その日の天気・気温に合わせて暖房の温度調節を行なっている。又、換気はこまめに行ない、温度・湿度調節を行なっている。利用者に合わせて対応もしている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>建物内は安全かつ、自立した生活が送れるよう必要部に手すりの設置、廊下にはいつでも休息できる椅子が数ヶ所に置かれている。廊下は両ユニット合わせると50mくらいあり、歩行運動の場にもなっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室からトイレへ間違わずに行けるように、夜は居室とトイレのドアを少しずつ開け、トイレの電気をつけている。居室(その利用者により)・トイレ・浴室等に表紙をつけている。一人で過ごす休憩スペースには、口に入る大きさの物は置いていない。		今後、植木鉢の土も危険となってくるかもしれないので、検討して行く。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダは物干し竿があり、夏場は洗濯物を干したり取り入れたり、利用者がすることがある。中庭には野菜畑を作り、プランターに花を植えているので、その手入れを一緒にしたり、パラソルの下でお茶飲みをしたりしている。		ベランダの出入りのスペースが狭いので、物を整理して安全に出入りしやすくしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. サービスの成果に関する項目				
項目		取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない		
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない		
98	職員は、生き生きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・入居者の方々が自由に過ごす事が出来るよう、入浴なども時間や曜日を決めておらず、自己決定の出来るように心がけている。
- ・マニュアル類や決まり事を最小限にし、現場のスタッフがそれぞれが考え、意見を出し合って実践しようとしている。